

資料館インフォメーション

資料館の動き

これまでの出来事 平成27年度下半期

- 平成27年度
- 9月26日(土) 語り部による伝承会
 - 10月24日(土) 天皇・皇后両陛下資料館ご視察
 - 1月26日(火)～28日(木) イタイタイ病映像展
 - 2月13日(土) イタイタイ病を考える県民フォーラム

これからの行事予定 平成28年度上半期

- 平成28年度
- 4月26日(火)～5月5日(木・祝) 春の特別企画展 『イタイタイ病弁護団の軌跡』
 - 4月27日(水) 留学生のためのイタイタイ病講座
 - 7月29日(金)～30日(土) 夏休み自由研究講座 ～イタイタイ病を学ぼう～
 - 8月5日(金) イタイタイ病を学ぶ 日帰りバスツアー
 - 8月18日(木) 教員向け資料館活用研修会



丸川環境相来館【10月】 イタイタイ病映像展【1月】

春の特別企画展

『イタイタイ病弁護団の軌跡』【入場無料】

イタイタイ病裁判の勝利に向けて住民と共に闘ってきた正力弁護団長を中心としたイタイタイ病弁護団の軌跡を写真パネルの展示や対談、講演で振り返ります。

○写真パネルの展示

日時：平成28年4月26日(火)～5月5日(木・祝) 9:00～17:00
場所：富山県立イタイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム

○対談

日時：平成28年4月29日(金・祝) 14:00～16:00
場所：とやま健康パーク 2階 第1研修室

パネリスト
朝倉 正幸氏 (イタイタイ病弁護団 団長)
松波 淳一氏 (元イタイタイ病弁護団)

○講演

日時：平成28年5月3日(火・祝) 14:00～15:30
場所：とやま健康パーク 2階 第1研修室
講師：奥田 一重氏 (元NHK富山放送局 プロデューサー)
演題：『イタイタイ病と公害報道』

留学生のためのイタイタイ病講座

日時：平成28年4月27日(水) 14:00～16:00
場所：富山県市町村会館 ホール
※一般県民の方も参加いただけます。

○講演

講師：富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡森 定信
演題：『富山のイタイタイ病の歴史』

○語り部講話

語り部：高木 良信氏
(イタイタイ病対策協議会副会長、患者ご家族)

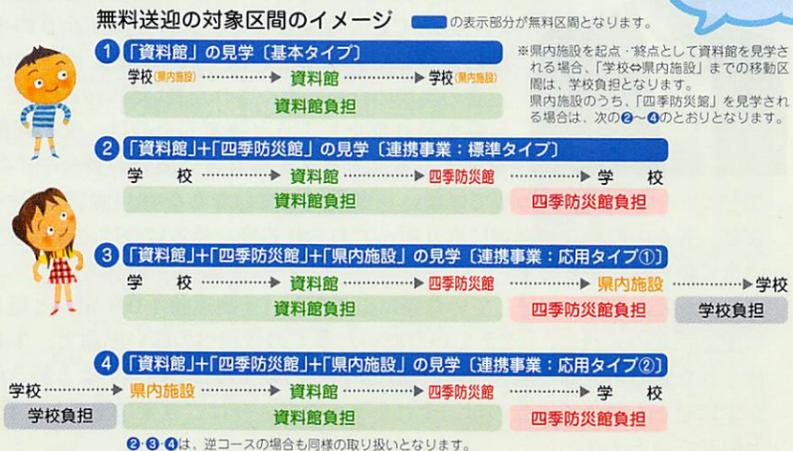
※行事の日程や内容については、変更になる場合があります。

○課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ ～今年も無料送迎バスを提供します!!～

今年も多くの子どもたちにイタイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する『課外学習サポート事業(環境省委託)』を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」も見学する場合は、無料区間が延長され、より利用しやすい内容になっています。たくさんのご利用をお待ちしています。

詳しくは、資料館までお尋ねください。



3月23日(水) 募集開始!!

メールマガジン

【登録者募集中】

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行/富山県立イタイタイ病資料館 〒939-8224 富山県富山市友杉151番地 (とやま健康パーク内)
電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833
(平成28年3月発行) URL▶http://itaitai-dis.jp



富山県立イタイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum

資料館だより

2016年 春号

contents

- 地域に根ざした公害病資料館を目指して…2
- 公害の教訓を未来へ繋いでいくために…2
- 学びを振り返って…3
- 語り部コーナー…3
- 資料館インフォメーション…4



平成28年 2月13日 イタイタイ病を考える 県民フォーラム開催



平成27年 10月24日 天皇・皇后両陛下資料館ご視察



県民講座 (講師：星野知子氏)



富山市立鶴坂小学校



高岡市立博労小学校



富山市立三成中学校



富山国際大学 現代社会学部

両陛下のお言葉

富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡森 定信

新年度に入り当資料館は開館5年目を迎えます。昨年は両陛下がご訪問されました。語り部のみなさんお一人おひとりに、「どなたを看病されましたか?」、「大変でしたね」とお声をおかけになりました。

また、イタイタイ病のことを途上国はもちろん、もっと世界に伝え広めるようにとの激励をいただきました。今年は、世界の環境大臣会議が富山で開催されます。両陛下の激励と合わせて、国際的にも情報発信をしっかりと進めたいとスタッフ一同で取り組んでいます。

団体の来館者に占める児童・生徒数の割合は、開館以来増加し、半数以上になっています。提出をお願いしている感想文には、イ病の悲惨な歴史に胸を打たれるとともに、「もっと知りたい」、「多くの人に伝えたい。」などの記載が目につきます。両陛下の激励に応えるためにも、子どもたちの想いに応える新たな資料作成や情報提供法に取り組んでおります。若者たちが、イ病の歴史から学んだことを「こころの重し」として国際化が進む社会でたくましく成長することを願いつつ。



県民フォーラム 地域に根ざした公害病資料館を目指して～公害病資料館の課題とは～

2月13日(土)、イタイイタイ病を考える県民フォーラムを開催し、約100名の方々に参加いただきました。開会の挨拶では、石井知事が、今年発足50周年を迎えるイタイイタイ病対策協議会のことに触れられ、関係者のこれまでのご尽力に対し、感謝を述べられるとともに、昨年10月に天皇・皇后陛下に資料館をご視察いただき、天皇陛下から「イタイイタイ病の教訓を外国を含め皆に知らせる意義は大きいですね。」という励ましのお言葉にとても感激したと述べられました。

学習発表会では、県内の小学校2校、中学校1校、大学1校に資料館の見学を踏まえ学習・研究した成果を発表していただきました。

会場の参加者からは、発表内容に対する称賛の声や子どもたちがイタイイタイ病の教訓を将来へ繋いでいくことへの期待の聲が寄せられました。

午後は、女優でエッセイストの星野知子氏による県民講座を開催しました。「水と緑の星に生まれて～これからの環境問題について考える～」をテーマに、星野氏が世界各地を訪れた体験から、水と緑、環境の大切さそして恵まれた日本の自然環境の美しさを再発見することの必要性について、写真を交えながらご講演いただきました。

四大公害病資料館の館長等によるシンポジウムでは、「地域に根ざした公害病資料館を目指して」をテーマに意見を交わしました。

発表者と発表内容

- ・富山市立鶴坂小学校 ⇒ 班別学習で作成したイタイイタイ病壁新聞
- ・高岡市立博労小学校 ⇒ 課外学習を踏まえての感想文
- ・富山市立三成中学校 ⇒ 県内中学生へのイタイイタイ病意識調査の結果を交えた学習のまとめ
- ・富山国際大学 ⇒ 「聞き書き」手法を用いたイタイイタイ病の理解



公害の教訓を未来へ繋いでいくために



○語り部による伝承会【9月】

9月26日(土)、水俣市立水俣病資料館の永本賢二さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の山崎昭正さん、四日市公害と環境未来館の山本勝治さん、そしてイタイイタイ病資料館の青木有明さんにお集まりいただき、四大公害病資料館の語り部による伝承会を開催しました。

それぞれの語り部からは、公害発生地域が抱える特殊な事情や長い間患者や家族に向けられてきた差別や偏見の実態、公害発生当時の社会的な背景や地域の暮らしの様子など貴重な体験が語られました。

また、意見交換会には、イタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、資料館の鏡森館長も加わり『公害の教訓を未来へ繋ぐ』をテーマに話し合いました。その中では、語り部から活動を通して、住民の中に今も存在する公害病に対する誤った認識を少しでも無くし、未来を担う子どもたちに公害の教訓を語り継いでいきたいという強い思いの一端もお話いただきました。



○イタイイタイ病を考える県民フォーラム・シンポジウム【2月】

シンポジウムは、水俣市立水俣病資料館の島田館長、新潟県立環境と人間のふれあい館の塚田館長、四日市公害と環境未来館の生川館長にイタイイタイ病対策協議会の高木会長、イタイイタイ病資料館の鏡森館長を加え行いました。

コーディネーターは金沢大学地域創造学類の香坂玲准教授に務めていただき、資料館と地域の協力や資料館同士の連携をテーマに意見交換を行いました。

シンポジウムでは、各資料館での取り組み状況やそれぞれの地域が抱える問題や課題について各館長にご紹介いただきましたが、四館が共通して取り組んでいる課題が語り部の高齢化への対応でした。

語り部本人の貴重な体験をどのような形で継承していくのか、各館が取り組んでいる証言映像の撮影や語り部の養成講座、朗読会の実施といった具体的な事例が紹介され意見が交わされました。

『地域に根ざした資料館』としてその役割を担っていくためには、今後も地域の方々の協力、そして四つの公害病資料館の連携が必要不可欠であることを改めて確認しました。



参加者の声

子どもたちの学習発表会を通して、親の世代もイタイイタイ病の理解を深めるよききっかけになりました。(富山市：30代男性)

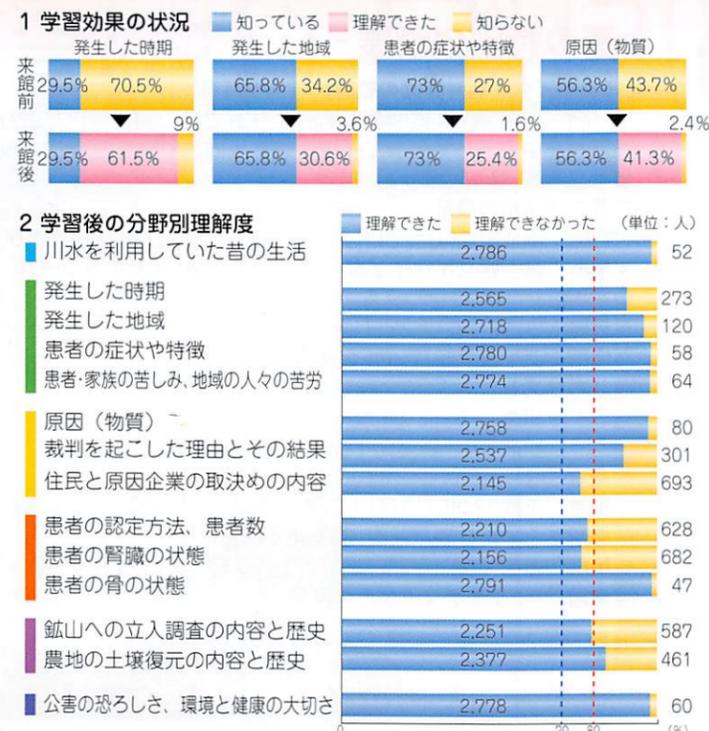
子どもたちの学習発表会を見て、とても頼もしく思いました。これからは非イタイイタイ病の教訓を語り継ぐことの実践を続けていって欲しいと思いました。(東京都：30代男性)

四大公害病資料館の館長さんから直接お話を聞けてよかったです。共通の悩みや改善方法について取り組むべき具体的な方向が見えたように思います。(滑川市：50代男性)

イタイイタイ病という言葉は、十分に知っているつもりでしたが、知らない事もたくさんありました。患者さんのことを考えると辛いです。(高岡市：60代女性)

学びを振り返って

課外学習サポート事業調査結果報告



「課外学習サポート事業利用者調査」(2015年度中間とりまとめ) 調査対象/小中高生2,838人(51校)

利用者の声 ～見学後のアンケートから～

イタイイタイ病は、患者さんだけでなく家族やまわりの人たちも悲しませ、苦勞させたことが分かりました。(小学生：男子)

イタイイタイ病になった方の当時の様子がとても詳しく分かりました。(小学生：女子)

患者とその家族、被害者団体の皆さんの辛さや苦勞、これまでの努力について子どもの心に届くお話でした。語り部さんの想いが一言一言から伝わってきました。(小学校教員：女性)

被害者、被害者家族の辛さ、悲しさは子どもたちの心にしっかりと響いていました。(小学校教員：男性)



調査結果から

- ・調査項目の全てにおいて9割以上の利用者が「理解できた」と回答していることから資料館の見学が着実に理解に繋がっていることが分かりました。
- ・病気の症状や特徴、患者や家族の苦しみや地域の人々の苦勞について理解が深まった、印象に残ったという回答が多く、語り部講話や展示室の写真が理解を後押ししたと考えられます。

今後学習してみたいこと

- ・立入調査や土壌復元については、今後学習したいという回答が多かったことから利用者にとっては非常に興味深い内容であることが分かりました。



語り部コーナー



今回紹介する「語り部」さんは、江添良作さんです。

江添さんの父・久明さんは、イタイイタイ病対策協議会の副会長として、患者救済や裁判勝訴に尽力されました。江添さんは、講話の中で父・久明さんの生涯を辿りながら、当時の時代背景や患者・家族の様子を伝えると共に、公害病の悲惨さとその教訓を後世に語り継いでいくことの必要性についてお話しされています。

『何を語り継ぐか』

江添良作さん(66歳)

東日本大震災の前日に、父・久明は萩野病院で青島先生に看取られ85歳で亡くなりました。父の40年余りの半生は、裁判闘争と勝訴直後に三井金属との間で取り交わした2つの誓約書と1つの協定書の実現のために費やされた長い闘いの歴史でした。

私が語り部をしようと思ったのは、父の死後、今年で50周年を迎えるイタイイタイ病対策協議会の会合やイ病資料館の行事に参加して、「今もイ病は終わっていない」「風化させてはならない」「原因企業への立入調査の継続」など、多くの関係者が真剣に取り組んでおられる姿を見るにつけ、傍観者でいいのかとの自責の念に駆られたからです。

また、父の遺品を整理していた際に出てきた『イ病運動40年余』と題した少年期から晩年に至る手記の最後に、「支えていただいた多くの皆様への深い感謝と、100年の公害から解放された安心の故郷と清き神通の流れが再び汚染することの無いよう祈るのみです。勝訴を聞かずに逝った第1次原告の母、それを支えた父、今は亡き妻に感謝し、我が人生に悔いなし」と閉じています。

新人の語り部として、限られた時間内で何を語り、何を子どもたちに語り継げるのか、緊張しながら頑張っています。

語り部講話の聴講者を募集しています。対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。詳しくは資料館ホームページをご覧ください。



語り部講話の感想

イタイイタイ病の辛さや苦勞さを改めて知りました。これからは環境を大切に、美しい自然を守るためにできることをしていきたいです。(小学生：女子)

実体験を語る人がこれからどんどん少なくなっていくだろうけど、自分たちが少しでも今日の話の内容を伝えていきたいと思います。(20代男性)

語り部さんの悲痛な思いがにじんでいました。講話を聴いて改めてイタイイタイ病が昔の問題、話ではないんだと実感しました。(20代女性)

